

SKT-Ti-7／SKT-Tr-8

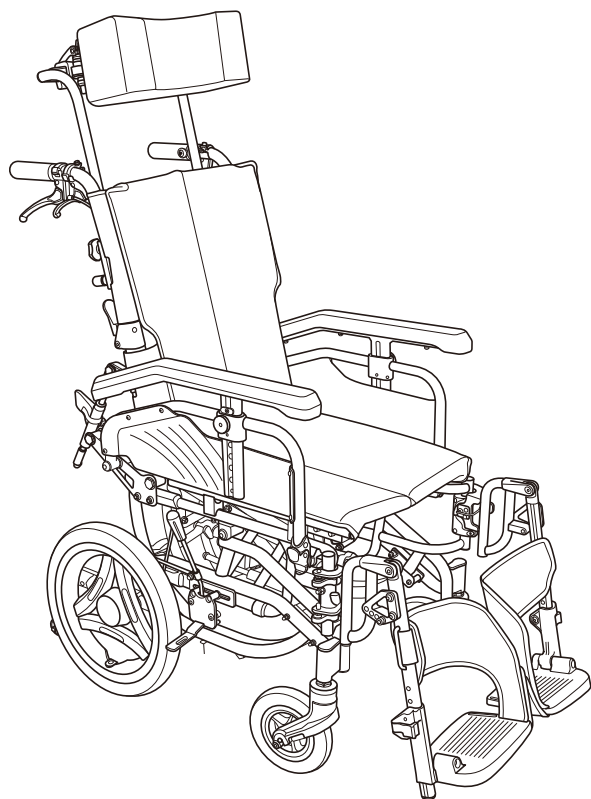
取扱説明書

ティルトタイプ

SKT-Ti-7

ティルト・リクライニングタイプ

SKT-Tr-8



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。使用者の身体の状況・環境の変化に合わせて、必要に応じて本書をお読みください。

目次

はじめにご確認ください	2
使用目的・特徴	2
安全上のご注意	2～5
各部のなまえ	6
使いかた	7
ブレーキのかけかた	7～8
車いすの開きかた・たたみかた	9～11
シートの取り付け・取り外し	12
乗り降りのしかた	13
アームサポートの跳ね上げ	14
フット・レッグサポートの開閉・取り外し	15
転倒防止装置の取り付け・取り外し	16
各部の調節のしかた	17
アームサポートの高さ調節	17
フットサポートの高さ調節	18
フット・レッグサポートの角度調節	19
座面の角度調節（ティルト機構）	20
バックサポートの角度調節（リクライニング機構）	21
ヘッドサポートの取り付け・取り外し	22
ヘッドサポートの高さ・位置・角度の調節	22～23
バックサポートの張り具合調節	24
キャスタのメンテナンス	25
使用上のご注意	26
保守・点検	26
お手入れ・保管について	26～27
走行上のご注意	27
段差介助のしかた	28
本製品の処分について	28
困ったときには	29～30
仕様	31
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙

本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。
製品向上のため、本書に記載している仕様の全部、または一部を予告なく変更することがあります。

本書は、SKT-Ti-7／SKT-Tr-8共通の取扱説明書です。
本書では、機種ごとに装備が異なる項目には以下のマークをつけています。マークを目印に、ご自分の車いすに関する項目をお読みください。マークのない項目は全車共通の内容です。

マーク	対象機種	マーク	対象機種
Ti-7	SKT-Ti-7	Tr-8	SKT-Tr-8

はじめにご確認ください

本製品ご購入後にはじめて梱包箱をあけるときに、下記のものがすべて入っていることを確認してください。

• 車いす本体 1台	• 背アウターシート 1ヶ	• 座クッション 1ヶ
• フット・レッグサポート 左右各1ヶ		• ヘッドサポート 1ヶ
• 工具 (スパナ 2ヶ 六角レンチ 5mm・4mm・3mm 各1ヶ)	• 取扱説明書 (本書)	• 保証書

ご使用前の準備は、下記のページをお読みください

- P.9 車いすの開きかた・たたみかた
- P.12 シートの取り付けかた
- P.15 フット・レッグサポートの取り付け・取り外し
- P.22 ヘッドサポートの取り付け・取り外し

使用目的・特徴

本製品は、一人乗り用の手動式車いすです。これに搭乗して移動と、休息を目的としています。

SKT-Ti-7の場合

身体支持部のティルト機構を装備した、介助者が操作する座位変換形介助用手動車いすです。
日常生活用に設計されており、特殊な使用目的(スポーツ・入浴など)のものではありません。

SKT-Tr-8の場合

身体支持部のティルト機構とリクライニング機構を装備した、介助者が操作する座位変換形介助用手動車いすです。
日常生活用に設計されており、特殊な使用目的(スポーツ・入浴など)のものではありません。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

表示の意味	 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
	 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。
記号の意味	 警告・注意を促す内容があることを告げるものです。	
	 禁止の行為であることを告げるものです。	
	 行為を強制したり指示する内容を告げるものです。	

⚠ 危険



スピードを出さない。

スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車する。

坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。



下り坂では、車いすを後ろ向きにして、ゆっくり下りる。

制動用ブレーキレバーを使い、スピードを落としてください。



エスカレーター（車いす対応エスカレーターを除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）では使用しない。

転落や転倒など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターを利用する際は、必ず施設管理者の指示に従ってください。



フットサポートの上に乗ったり、立ち上がったらない。

主輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

⚠ 警告



乗り降りの際および停止時、車いすから離れるときは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかける。

ブレーキがかかっていないと車いすが動きだして、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。



使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認する。

ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。



制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかける。

転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



手押しハンドル、ヘッドサポート、アームサポート、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしない。

過度の荷物はバランスを崩して、転倒する恐れがあります。



駐車用ブレーキレバーに体重をかけない。

レバーやフレームが破損・変形して、転倒する恐れがあります。



乗り降りの際は、上げたフットサポートに足が当たらないように注意する。

けがをする恐れがあります。



前かがみの状態など、車いすの前方向へ体重をかけない。

車いすの後方が浮き上がり、前方に転倒する恐れがあります。



車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わない。

製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。



自動車の座席として使用しない。

本製品は、車いすに座ったまま自動車等に乗車することを前提に設計されたものではありません。車いす移動車の座席として使用した場合、車載時の負荷により、車いすが破損する恐れがあります。



走行中に駐車用ブレーキを使用しない。

転倒など事故につながる恐れがあります。



走行中は、アームサポートの跳ね上げ、高さ調節、フット・レッグサポートの回転、ティルト・リクライニングの操作、ヘッドサポートの調節等の操作をしない。

事故やけがにつながる恐れがあります。



各部を調節する際は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行う。

車いすが動きだして、事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠ 警告

-  **アームサポート、フット・レッグサポート、ヘッドサポートを持って車いすを持ち上げない。**
部品が外れて、事故やけがにつながる恐れがあります。
-  **アームサポートを跳ね上げた状態で走行しない。**
使用者が車いすから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。
-  **フット・レッグサポートを回転させた状態で車いすの操作をしない。**
フット・レッグサポートを取り外さず回転させたまま使用すると、駐車用ブレーキや障害物との接触などにより、事故やけがにつながる恐れがあります。
-  **アームサポートの跳ね上げ時およびフット・レッグサポートの回転時は、可動部に身体や衣服を引っ掛けたりはさんだりしない。**
けがをする恐れがあります。
-  **乗り降りの際は、アームサポート、フット・レッグサポートに身体や衣服を引っ掛けないように注意する。**
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
-  **ティルト・リクライニングさせた状態で乗り降りしない。**
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
-  **アームサポートを戻した後は、アームサポートが確実に固定されていることを確認する。**
使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。
-  **ティルト・リクライニング操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行う。**
使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていっていると、手や腕をはさみ、けがをする恐れがあります。
-  **フット・レッグサポートを戻した後は、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認する。**
使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。
-  **タイヤ、キャストが摩耗した状態で使用しない。**
タイヤ、キャストが摩耗すると、駐車用、制動用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店へお問い合わせください。
-  **ティルト・リクライニング操作は、必ず介助者が行う。**
-  **乗り降りの際は、座シートを水平の位置に戻す。**
-  **ティルト・リクライニングさせた状態で段差を乗り越えたり、スロープを通過しない。**
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
-  **走行時、タイヤの摩擦による床面の汚れや傷つきに注意する。**
クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車いすを走行させると床面に汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。

⚠ 注意

-  **二人以上の乗車や、目的以外での使用はしない。**
この車いすは一人用です。
-  **車いすを暖房器具に近づけない。**
タイヤの表面が溶けたり破損する場合があります。また、フレームや各部品が熱で破損や変形する恐れがあります。破損した場合はただちに使用を中止して、お買い上げの販売店へお問い合わせください。
- 
-  **指定された耐荷重を守る。**
最大体重(積載物も含む)は100kgです。体重制限を守って使用してください。
-  **アームサポートの高さを調節した後は、必ずロックされていることを確認する。**
-  **操作中に異常な音や振動が発生したら、ただちに使用を中止する。**
事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

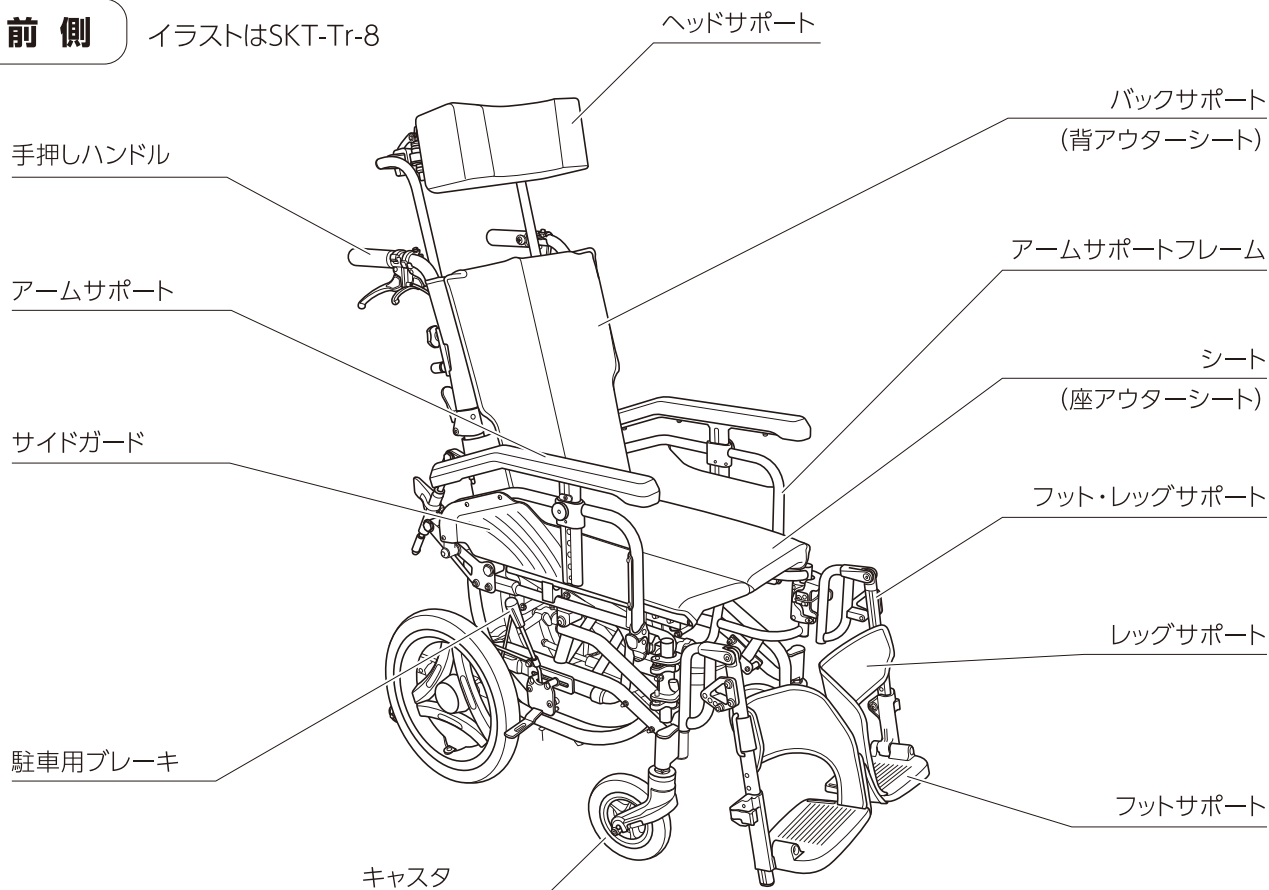
-  シートパイプやアームサポートのパイプを握ったまま、車いすの開閉操作を行わない。

手指や爪、衣服が巻き込まれてけがをする恐れがあります。
-  使用前に、主輪、キャスタ、駐車用ブレーキ等のネジがゆるんでいないか点検する。
ネジ等がゆるんだ状態で使用すると、部品のガタツキや脱落などの原因となり、事故やけがにつながる恐れがあります。
-  使用者の体格や座位姿勢によってサイドガードが外側にひろがった状態で使用しない。
車いすの破損や故障の原因となります。
-  バックサポートの面ファスナーの張り具合を過度に強くしない。
張り具合を過度に強くすると、十分に車いすが開かなくなりフレームの変型の原因になります。
-  アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認する。
アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。
-  駐車ブレーキをかけたまま走行しない。
タイヤの異常摩耗の原因となります。
-  走行中、身体を乗り出さない。
走行の安全を損ない危険です。
-  走行中、足がフット・レッグサポートから落ちないように注意する。
事故やけがにつながる恐れがあります。
-  車いすを持ち運ぶ際や、自動車などへ載せる際および積み下ろす際は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけて、駆動輪が回転しない状態で行う。
車いすに大きな衝撃を与えないように、ゆっくりと静かに降ろしてください。
-  使用者の乗車中、背折れジョイントの操作を行わない。
背折れジョイントのヒンジ部分で手や腕をはさんだり、使用者が後方に転倒する恐れがあります。
-  段差を超えるときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくりと操作する。
-  背折れジョイント、アームサポート、フット・レッグサポート、ヘッドサポートなどの可動部に指や身体をはさまないように注意する。
-  フット・レッグサポートのすき間に手や足を入れない。
けがをする恐れがあります。
-  フットサポートの下には足を入れない。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャスタなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。
-  フットサポートを足で上げる際は、素足では行わない。
けがをする恐れがあります。
-  車輪・キャスタを他のサイズや種類に変更しない。
-  シャワーや入浴には使用しない。
水分や湿気などにより故障する恐れがあります。
-  シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しない。
製品を傷める恐れがあります。
-  静電気やシート生地への毛羽付着に気を付ける。
フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによってシート生地に毛羽が付着することがあります。衣服用ブラシなどで付着した毛羽を取り除くか、市販の静電気防止スプレーを使用するなどしてください。
-  ティルト・リクライニングさせた状態でアームサポートを跳ね上げない。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
-  ティルト・リクライニングさせた状態のバックサポートに腰掛けない。
転倒など事故やけがにつながる原因になります。
-  介助者は、ティルト・リクライニング操作時には声かけを行う。
ティルト・リクライニングの操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。また、操作するときには、使用者の体重が手押しハンドルにかかります。確実に支えながらゆっくり操作してください。

各部のなまえ

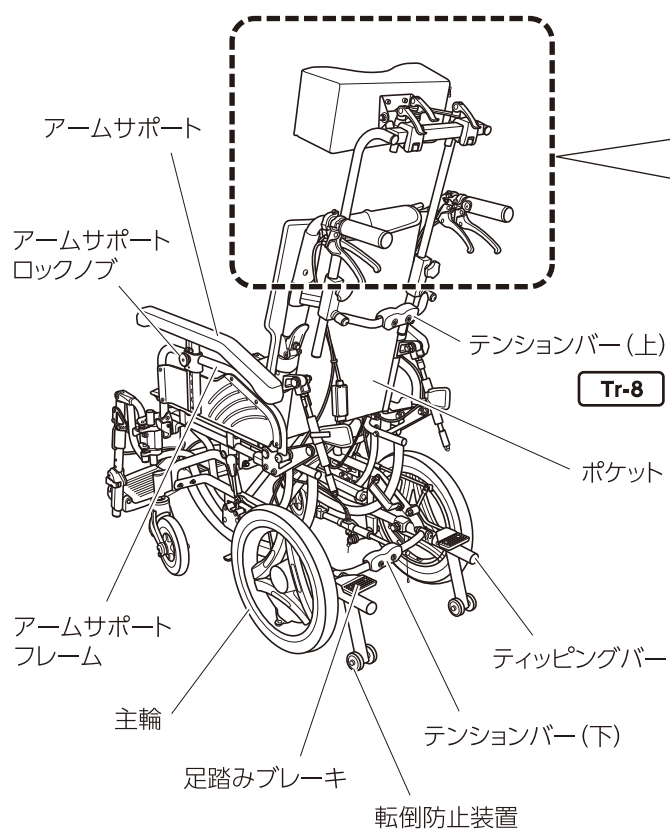
前側

イラストはSKT-Tr-8



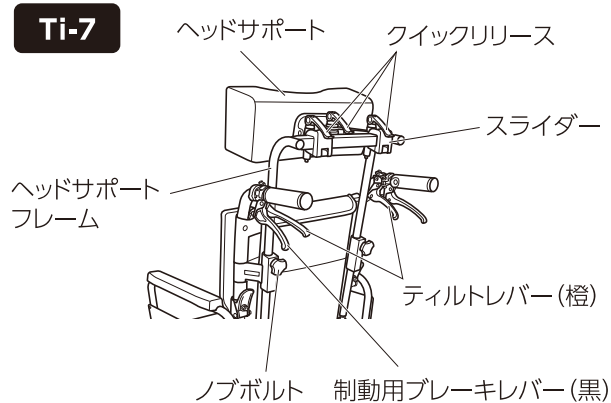
後側

イラストはSKT-Tr-8

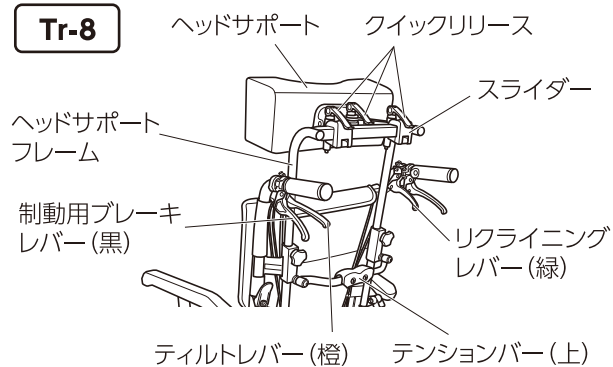


ヘッドサポート／手押しハンドル部

Ti-7



Tr-8



ブレーキのかけかた



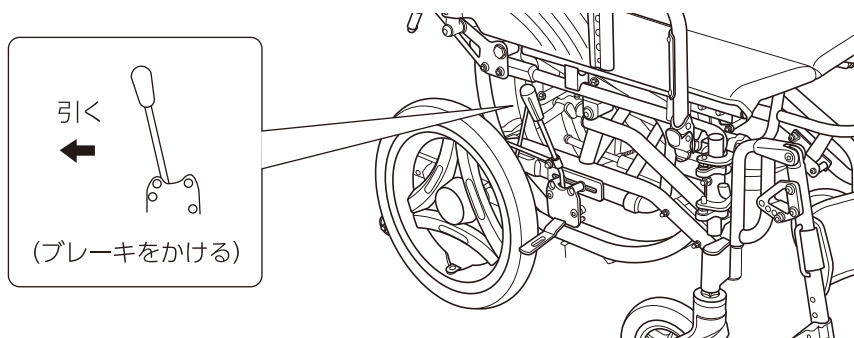
警告

- 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動き出して、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。
- 駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形して、転倒する恐れがあります。
- 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜がある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- タイヤの摩耗や劣化に注意してください。タイヤが摩耗や劣化すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒など事故につながる恐れがあります。

駐車用ブレーキのかけかた

使用者が、左右の駐車用ブレーキレバーを後方に引いてかけます。

駐車用ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。

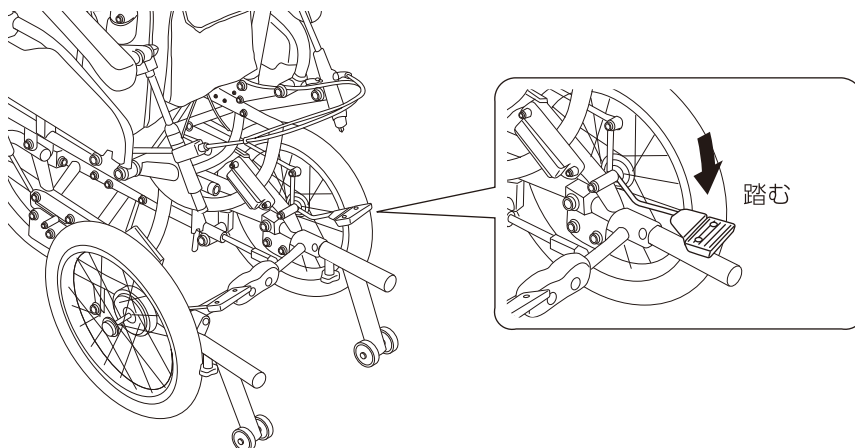


足踏みブレーキの使いかた

介助者が、左右の足踏みブレーキを踏み込みます。

(駐車用ブレーキがかかります。)

足踏みブレーキを足で持ち上げて元の位置に戻すと解除されます。



制動用ブレーキのかけかた

⚠ 危険

- スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
- 急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。
- 雨の日など路面、タイヤが濡れている状態では、本来の制動力を得られないことがあります。十分に注意したうえで操作してください。

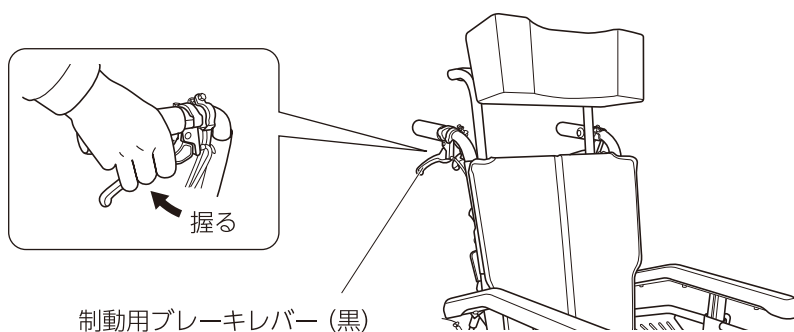
⚠ 警告

- 制動用ブレーキは、介助者がレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。（交換の目安：1年に一度）

介助者が、左右の手押しハンドル下側の黒色の制動用ブレーキレバーを左右同時に握ってかけます。
ブレーキレバーを放すと解除されます。



車いすの開きかた・たたみかた

⚠ 注意

- シートパイプやアームサポートのパイプを握ったまま車いすの開閉操作を絶対に行わないでください。手指や爪、衣服が巻き込まれてけがをする恐れがあります。
- 作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- 背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。
- 背折れジョイントを上げる際は、開口部にシートを巻き込まないように注意してください。ジョイントが完全にロックされない恐れがあります。また、シートの破損につながる恐れがあります。
- 後方へ進行や旋回をするときに、背折れジョイントが障害物に当たらないように注意してください。背折れジョイントのロックが外れて後方へ姿勢をくずす恐れがあります。

開きかた

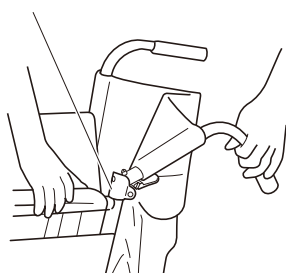
1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 手押しハンドルを両側とも上げます。

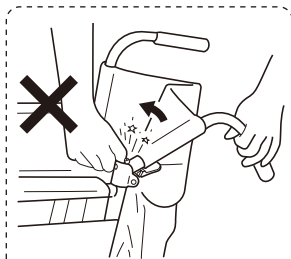
※背折れジョイントが完全にロックされるまで上げてください。

※開口部に手や指を近づけないでください。
手や指をはさんでけがをする恐れがあります。

背折れジョイント



手押しハンドルを
両側とも上げる



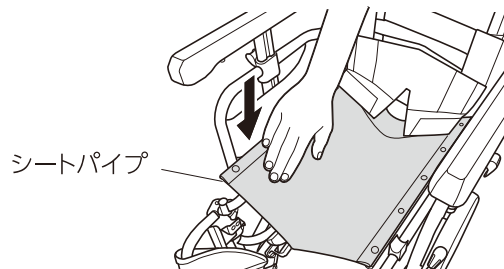
手をはさむおそれあり

3 手押しハンドルを両側とも軽く持ち、車いす本体の後方部を浮かせながら左右に開きます。

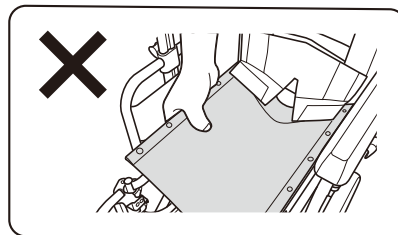
4 シートパイプの両端を手のひらで押し下げます。

※シートパイプを握らないでください。

※シートパイプの中央付近を押して、先端は押さないでください。

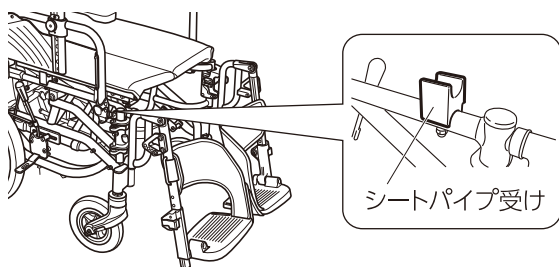


シートパイプ



- 5** シートパイプ受けにシートパイプがしっかりと
はまっていることを確認します。

※しっかりとはまっていない場合は、シートパイプ
の中央付近を押してはめてください。
押すときは、シートパイプの先端を押さない
でください。フレームが変形する恐れがあり
ます。

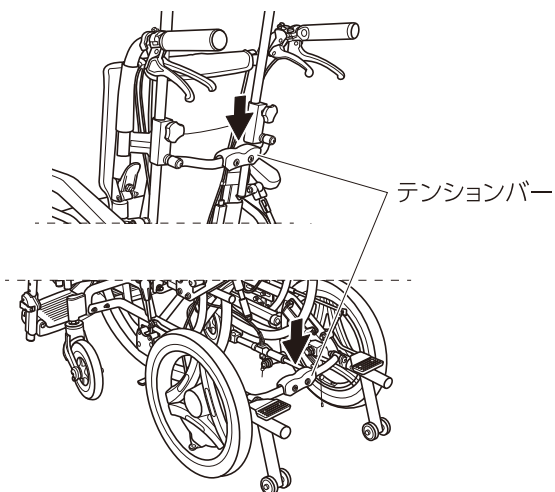


※シートパイプ受けにシートパイプをはめ込む
ことで、ガタつきをなくす構造になっています。
※左右のフレームがねじれていると、シートパイ
プがはめにくい場合があります。そのときは、
ティルトレバーを操作して左右のフレーム
のねじれを直してください。

- 6** テンションバーの中央を持ち、ロックするまで
押し下げます。

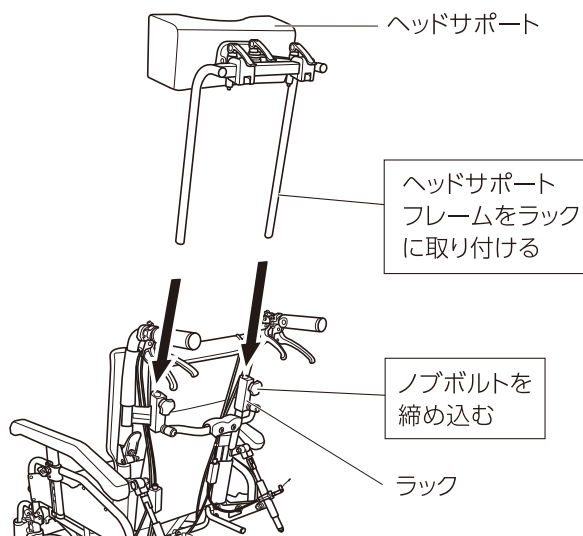
Ti-7 主輪内側(下部)の1ヶ所

Tr-8 主輪内側(下部)および
手押しハンドル(上部)の2ヶ所



- 7** 背アウターシートと座クッションを取り付けます。
(⇒「P.12 シートの取り付け・取り外し」)

- 8** ヘッドサポートを取り付け、ノブボルトを締めて
固定します。
(⇒「P.22 ヘッドサポートの取り付け・取り外し」)



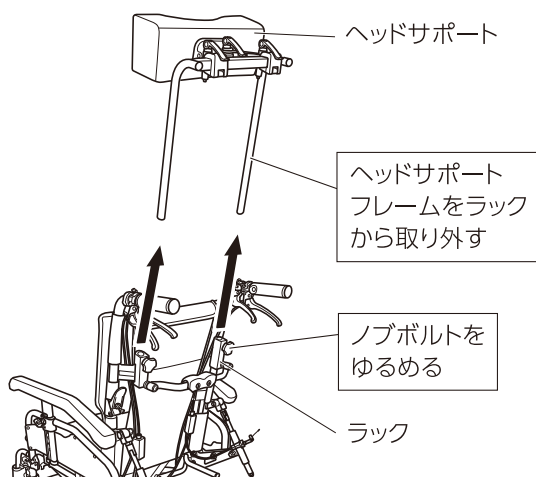
たたみかた

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 **Tr-8** リクライニングをしている場合は、バックサポートを起こします。
(⇒「P.21 バックサポートの角度調節(リクライニング機構)」)

3 ティルトをしている場合は、座面を水平に戻します。
(⇒「P.20 シートの角度調節(ティルト機構)」)

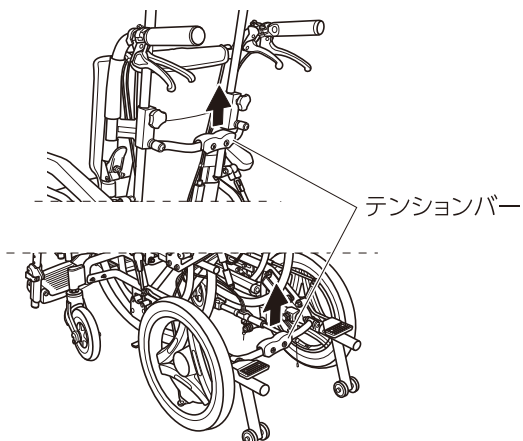
4 ノブボルトをゆるめて、ヘッドサポートを取り外します。
(⇒「P.22 ヘッドサポートの取り付け・取り外し」)



5 テンションバーを上を持ち上げ、少し折り曲げます。

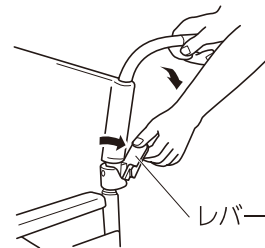
Ti-7 主輪内側(下部)の1ヶ所

Tr-8 主輪内側(下部)および
手押しハンドル(上部)の2ヶ所

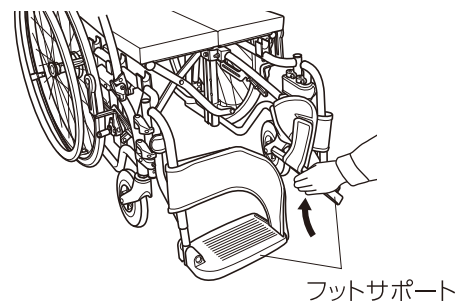


6 背アウターシートと座クッションを取り外します。
(⇒「P.12 シートの取り付け・取り外し」)

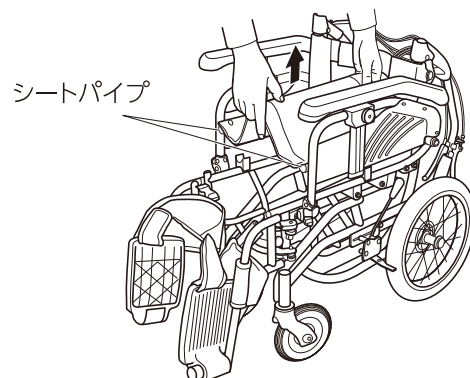
7 レバーを引いて、手押しハンドルを両側とも下げます。



8 フットサポートを両側とも上げます。



9 インナーシートを持ち上げて、シートパイプを引き寄せます。



10 左右のアームサポートを外側から内側に押して、座シートを折りたたみます。

※車いすをたたむときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。

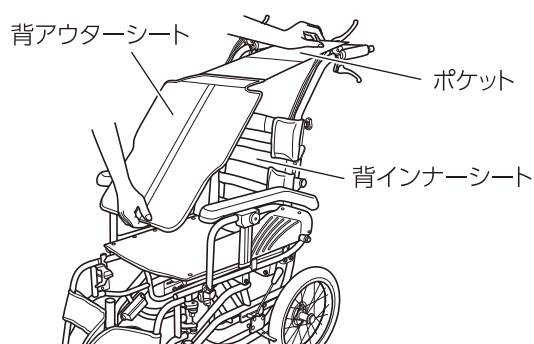
シートの取り付け・取り外し

⚠ 注意

- 作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- 使用者が乗車していない状態で作業してください。
- 面ファスナーに糸くず、汚れがついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

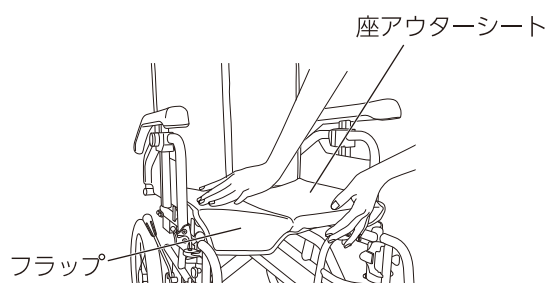
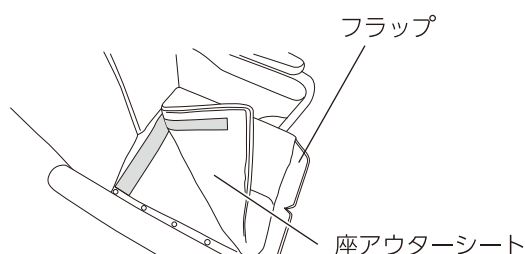
背アウターシートの取り付けかた

- 1 背アウターシートのポケット側を後ろにして、折り目部分が上にくるように車いす本体をあわせます。
- 2 背アウターシートと背インナーシートの面ファスナーを貼り合わせます。



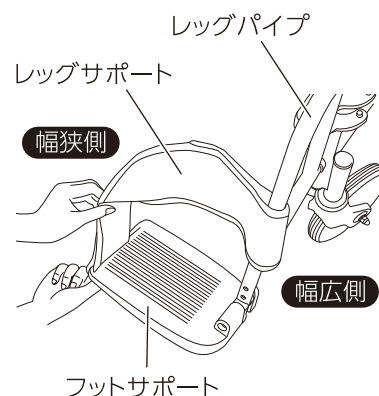
座クッションの取り付けかた

- 1 座アウターシートのフラップを前側にして、車いす本体のインナー座シート表面の面ファスナーと貼り合わせます。
- 2 フラップ部を折り曲げて、インナー座シート裏面の面ファスナーと貼り合わせます。



レッグサポートの取り付けかた

- 1 レッグサポートの幅広側の端を車いす本体のレッグパイプに巻き付けて、面ファスナーを貼り合わせます。
- 2 レッグサポートの幅狭側の端をフットサポート先端の前後どちらかの穴に差し込みます。
- 3 穴に通したレッグサポートの端を折り返して、面ファスナーを貼り合わせます。
- 4 反対側も同様の作業を行います。



取り外しかた

「取り付けかた」と逆の手順で行ってください。

乗り降りのしかた

⚠ 警告

- ティルトさせた状態で乗り降りしないでください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- 乗り降りの際は、座面を水平の位置に戻して、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。車いす動きだし大変危険です。
- 車いすに乗り移る際は、フットサポートの上には乗らないでください。転倒して、けがをする恐れがあります。
- 上げたフットサポートが足に当たらないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

乗りかた

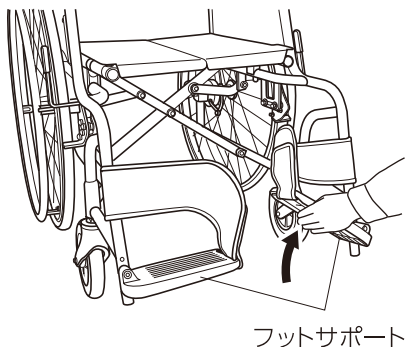
1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 **Tr-8** リクライニングをしている場合は、バックサポートを起こします。
(⇒「P.21 バックサポートの角度調節(リクライニング機構)」)

3 ティルトをしている場合は、座面を水平に戻します。
(⇒「P.20 シートの角度調節(ティルト機構)」)

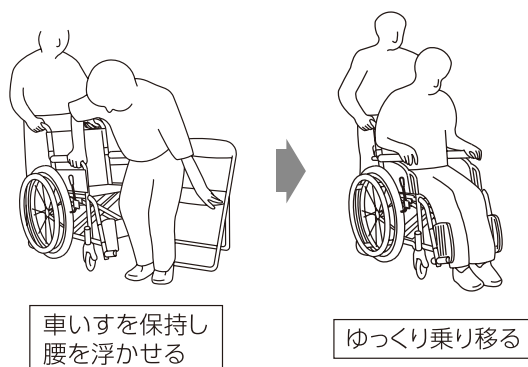
4 フットサポートを両側とも上げます。

※フットサポートの上には乗らないでください。
転倒して、けがをする恐れがあります。
※上げたフットサポートが足に当たらないように注意してください。けがをする恐れがあります。



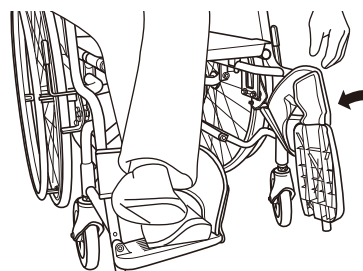
5 必要に応じて、「アームサポートの跳ね上げ」(⇒P.14)、「アームサポートの高さ調節」(⇒P.17)、「フット・レッグサポートの開閉・取り外し」(⇒P.15)を行います。

6 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。



7 「アームサポートの跳ね上げ」、「アームサポートの高さ調節」、「フット・レッグサポートの開閉・取り外し」、を行っていた場合は、元に戻します。

8 フットサポートを下げて両足の乗せます。



降りかた

「乗りかた」と逆の手順で行ってください。

アームサポートの跳ね上げ

アームサポートをワンタッチで後方へ跳ね上げることができます。
ベッドと車いすの間の移乗などがスムーズに行うことができます。



警告

- アームサポートの跳ね上げは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて、事故やけがにつながる恐れがあります。



注意

- アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。

跳ね上げかた

1

両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2

Tr-8 リクライニングをしている場合は、バックサポートを起こします。
(⇒「P.21 バックサポートの角度調節(リクライニング機構)」)

3

ティルトをしている場合は、座面を水平に戻します。
(⇒「P.20 シートの角度調節(ティルト機構)」)

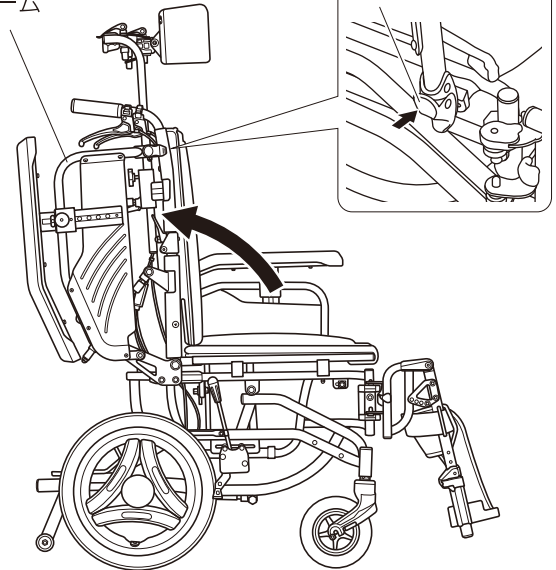
4

ロックレバーを押しながら、アームサポートフレームを持ち上げて後方へ跳ね上げます。

※アームサポートを上げた状態で、アームサポートに力を加えないでください。フレームが変形して故障の原因となります。

アームサポート
フレーム

ロックレバー



戻しかた



警告

アームサポートを下ろすときは、身体や衣服をはさまないように注意してください。

アームサポートを下ろして、元の位置に戻します。

※アームサポートを下ろした後は、アームサポートが確実に固定されていることを確認してください。



警告

アームサポートを跳ね上げた状態で走行しないでください。使用者が車いすから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。

フット・レッグサポートの開閉・取り外し

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉させたり、取り外すことができます。車いすへの乗り降りの際は、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

⚠ 警告

- フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて、事故やけがにつながる恐れがあります。
- 乗り降りの際は、フット・レッグサポートに身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- フット・レッグサポートの開閉時、フット・レッグサポートに身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- フット・レッグサポートを開いた状態で、車いすの操作をしないでください。
- フット・レッグサポートを戻した後は、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認してください。

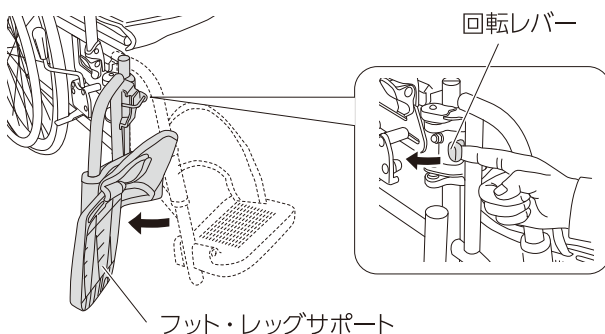
⚠ 注意

フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、使用者の脚をフットサポートから降ろした状態で行ってください。

開きかた

回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。

※フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。部品が変形して故障の原因となります。



閉じかた

フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。

※フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。

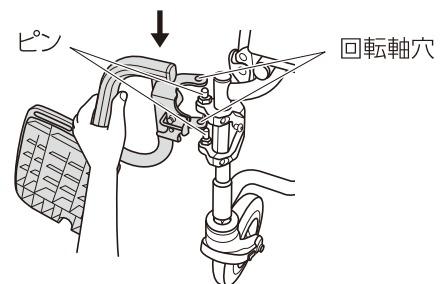
※フット・レッグサポートを閉じた後は、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認してください。

取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

取り付けかた

- 1 本体フレームのピン側に、フット・レッグサポート側の回転軸穴を合わせて、垂直に上からはめ込みます。



- 2 フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。

※フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。

※フット・レッグサポートを閉じた後は、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認してください。

転倒防止装置の取り付け・取り外し

⚠ 注意 操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。

取り付けかた

転倒防止装置(2本)を、図の向きにしてティップingleバーに差し込み、ロックボタンが穴から出ていることを確認してください。

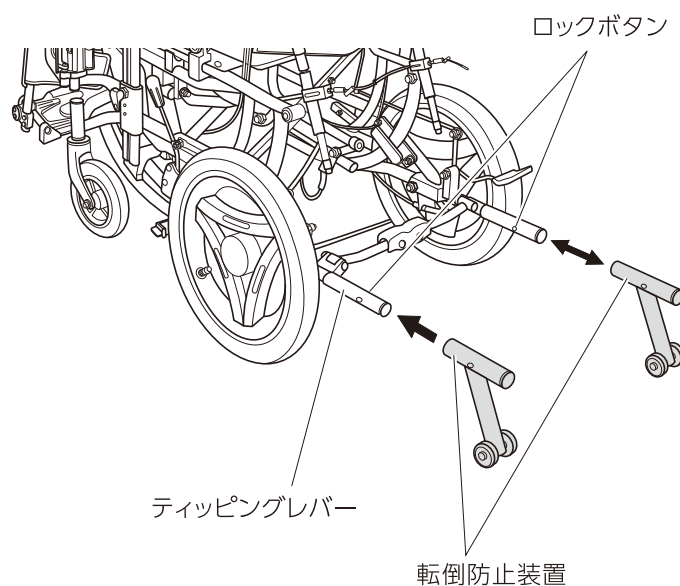
※転倒防止装置が一時的にじゃまになるときは、取り外すことができます。通常は、転倒防止装置を図のように取り付けた状態で使用してください。

取り外しかた

ロックボタンを押した状態で、転倒防止装置を引き抜いてください。

転倒防止装置の向きの変更

ロックボタンを押した状態で、転倒防止装置を横に180°回転させてください。ロックボタンが穴から出ていることを確認してください。



アームサポートの高さ調節

アームサポートの高さを調節することができます。

Ti-7 3段階

Tr-8 6段階

使用者の体格やお使いのクッションに合わせて高さを調節してください。

⚠ 警告

- アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて、事故やけがにつながる恐れがあります。
- 高さ調節をした後は、アームサポートが確実に固定されていることを確認してください。
- 高さ調節の際は、アームサポートフレームとアームサポートの間に指をはさまないように注意してください。けがをする恐れがあります。
- アームサポートの左右を入れ替えたり、前後の向きを入れ替えて使用しないでください。

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

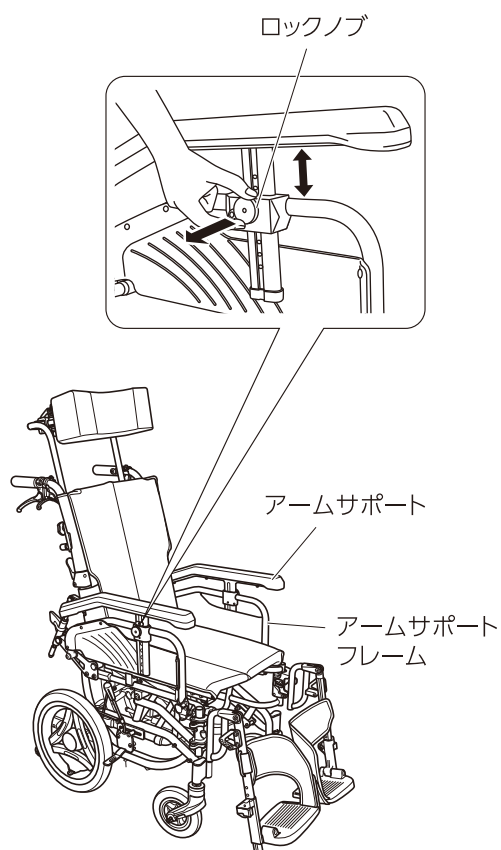
2 アームサポートを支えながら、ロックノブを引いてロックを解除します。

3 ロックノブを引いたまま、アームサポートを上下に動かして、高さを調節します。

4 希望の高さに調節したら、ロックノブを放します。

5 アームサポートを軽く上下に動かして、アームサポートが確実に固定されていることを確認してください。

※反対側も同様に調節してください。



フットサポートの高さ調節

ワンプッシュ(スライド)式フットサポート

使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。
20mm間隔で4段階の高さに調節することができます。

⚠ 警告

- 高さ調節をした後は、必ずフットサポートが固定されていることを確認してください。
- ロックピンが出ている状態では使用しないでください。足を乗せた際にフットサポートが動いたり、脱落してけがをする恐れがあります。
- 必ずロックピンがレッグサポートの調節穴に入っているか確認してください。

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 クランプレバーを開きます。

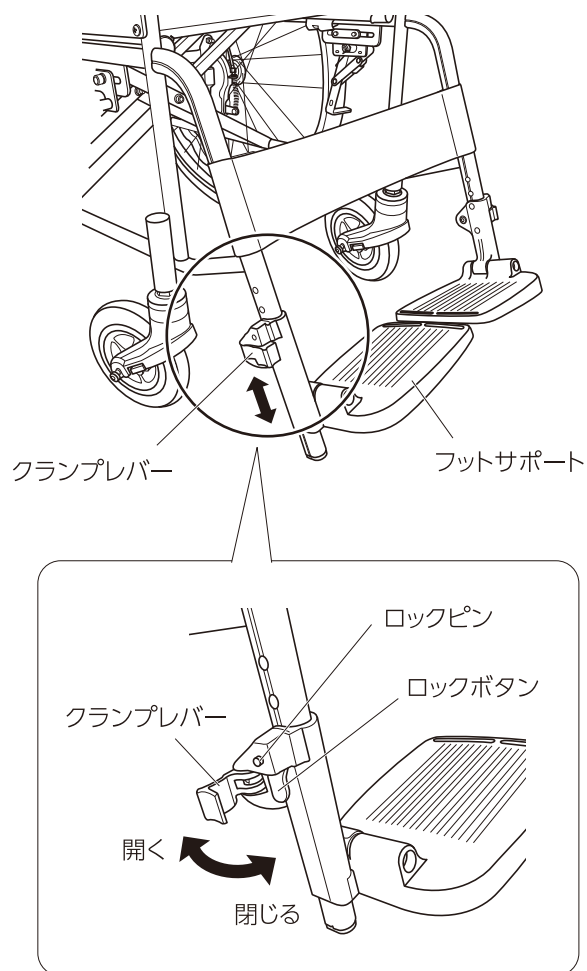
3 ロックボタンを押すと、ロックピンが飛び出ます。
この状態で、フットサポートの高さ調節が可能になります。

4 ロックボタンを押しながら、伸ばしたい(または縮めたい)方向へフットサポートを少し動かします。
フットサポートが動いたらロックボタンから手を離して、引き続き伸ばす(または縮める)と、カチッと音がしてロックピンがレッグサポートの穴に入り、フットサポートが固定されます。希望の高さになるまで、これを繰り返します。

5 希望の高さに調節したら、フットサポートを軽く上下に動かして、ロックピンが確実に調節穴に入っていることを確認してください。

6 ロックピンが出ていないことを確認して、クランプレバーを元の位置に戻します。

※調節後、フットサポートが確実に固定されていることを確認してください。



フット・レッグサポートの角度調節

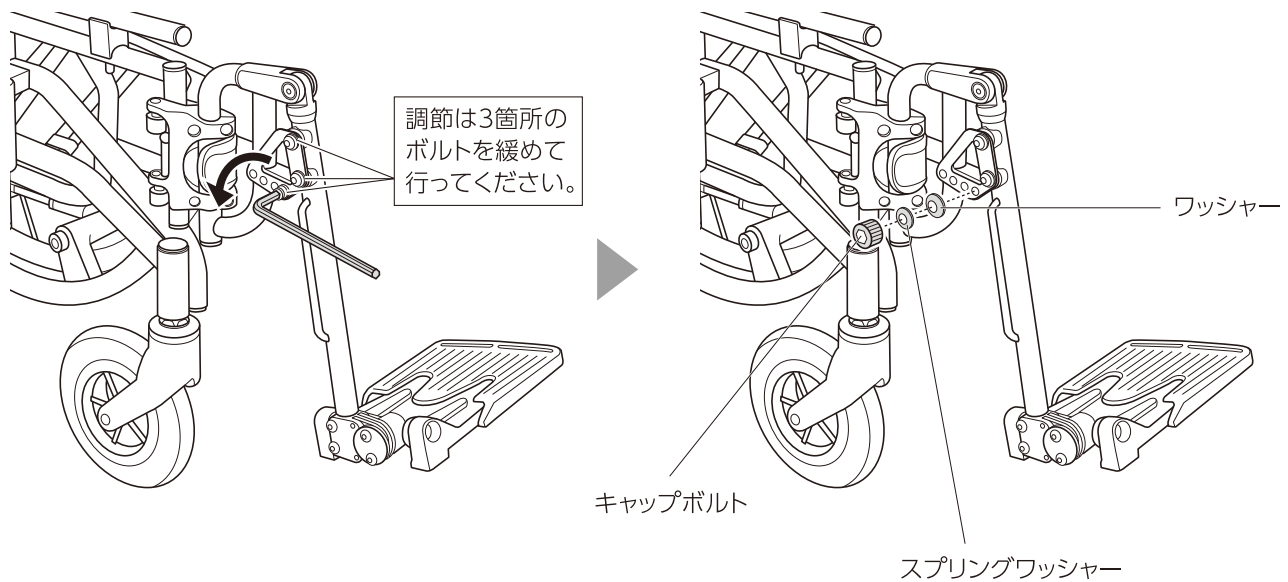
Tr-8

フット・レッグサポートを0～22.5°の範囲で4段階の角度調節ができます。

使用工具：六角レンチ (5mm)

- 1 フット・レッグサポートの角度を調節するプレートのボルト類を取り外します。
- 2 フット・レッグサポートの角度を調節して、希望の角度の穴にボルトを取り付けます。

締め付けトルク：5.0～6.0N・m



座面の角度調節（ティルト機構）

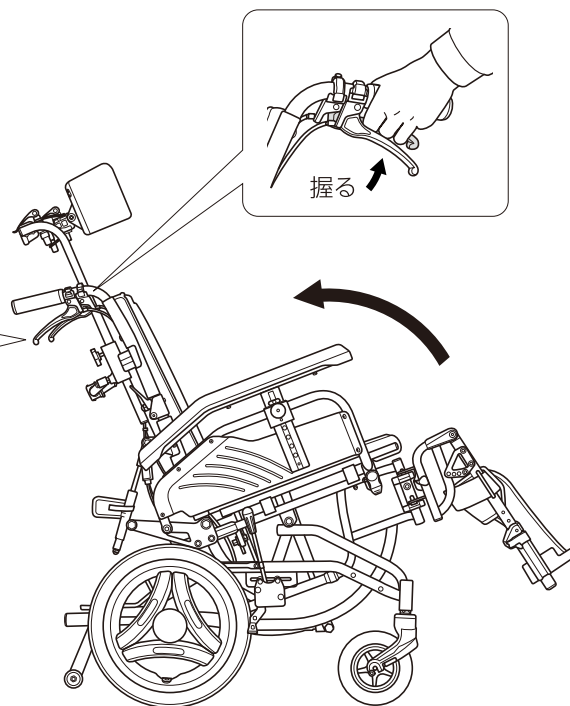
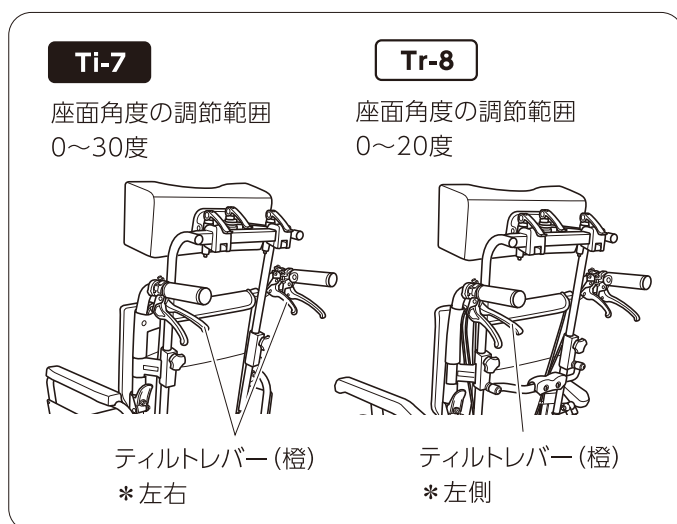


⚠ 注意

- 操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- 介助者は、操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。また、操作するときは、使用者の体重が手押しハンドルにかかります。確実に支えながらゆっくり操作してください。
- ティルト操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないと、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

倒しかた

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 手押しハンドル下側にあるレバーを握ります。
( マークが付いたオレンジ色のグリップです。)



- 3 希望の角度が決まったら、その位置でレバーを放します。
座面の角度が固定されます。
- 4 座面とバックサポートにガタつきがないことを確認します。

起こしかた

「倒しかた」と逆の要領で行ってください。

※操作はゆっくり行ってください。レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんので注意してください。

※使用者の体格や状態、シートおよびバックサポートの角度によっては後方への安定性が低下する場合があります。その場合は座面（ティルト）、バックサポート（リクライニング・SKR-8のみ）の角度を戻し、車いすを安定させた状態で使用してください。

バックサポートの角度調節(リクライニング機構)



Tr-8

⚠ 注意

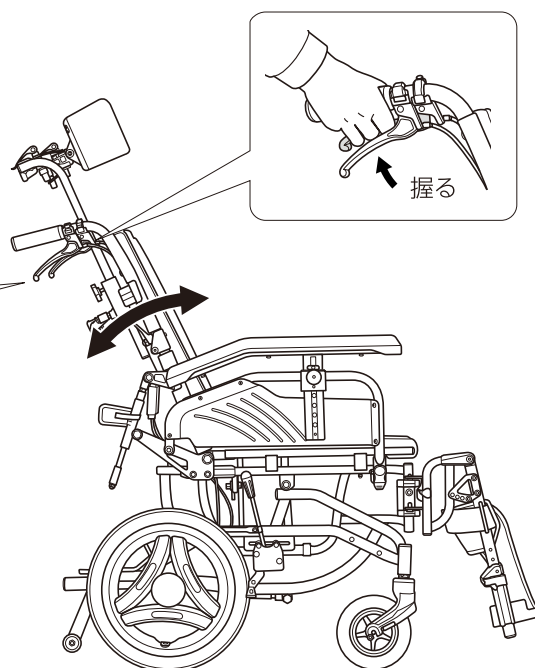
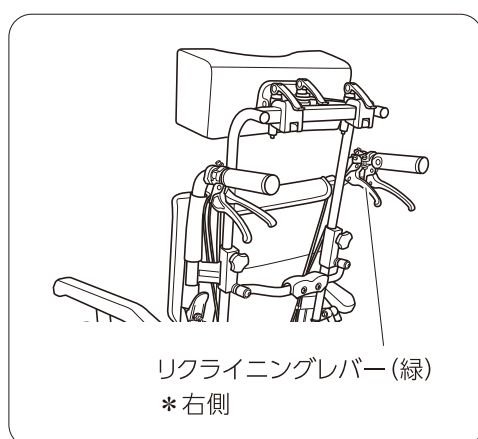
- 操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- 介助者は、操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。また、操作するときは、使用者の体重が手押しハンドルに掛かりますので、しっかり支えてください。
- リクライニング操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

倒しかた

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 右側の手押しハンドル下側にあるレバーを握ります。

( マークが付いた緑色のグリップです。)

バックサポート角度の調節範囲：90～110度



- 3 希望の角度が決まったら、その位置でレバーを放します。
バックサポートの角度が固定されます。
- 4 座面とバックサポートにガタつきがないことを確認します。

起こしかた

「倒しかた」と逆の要領で行ってください。

※操作はゆっくり行ってください。レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんので注意してください。

※使用者の体格や状態、シートおよびバックサポートの角度によっては後方への安定性が低下する場合があります。その場合は座面(ティルト)、バックサポート(リクライニング)の角度を戻し、車いすを安定させた状態で使用してください。

各部の調節のしかた

ヘッドサポートの取り付け・取り外し



警告

- 使用時、ヘッドサポートは必ず車いすに取り付けてください。取り付けずに使用すると正しくティルト・リクライニングができず、車いすの破損や故障の原因となります。

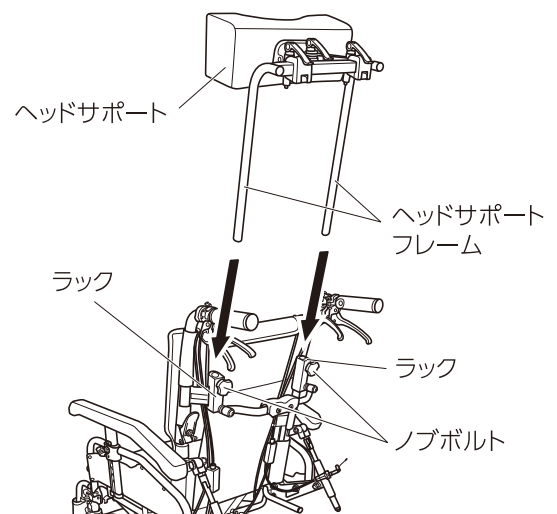


注意

- ヘッドサポートの取り付け・取り外しは、使用者が乗車していない状態で行ってください。

取り付けかた

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 車いすを開いた状態にします。
(⇒「P.9 車いすの開きかた／たたみかた」)
- 3 左右のラックに、ヘッドサポートフレームを差し込みます。
※ノブボルトが当たって入らない場合は、ノブボルトをゆるめてください。
- 4 左右のノブボルトを締め付けてヘッドサポートを固定します。
※ヘッドサポートにがたつきがなく、確実に固定されていることを確認してください。



取り外しかた

取り付けと逆の要領でノブボルトをゆるめて、ヘッドサポートを上を持ち上げてラックから取り外します。

ヘッドサポートの高さ・位置・角度の調節

使用者の体や状態に合わせて、ヘッドサポートを適切な高さ、位置、角度になるように調節してください。

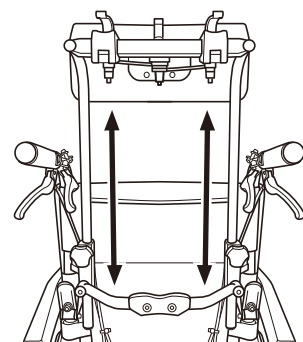


警告

- ヘッドサポートの各部に指をはさまないように十分注意してください。けがをする恐れがあります。
- ヘッドサポートの調節は、使用者の頭部の状態に十分注意しながら行ってください。
- ヘッドサポートを調節した後は、ヘッドサポートが確実に固定されていることを確認してください。

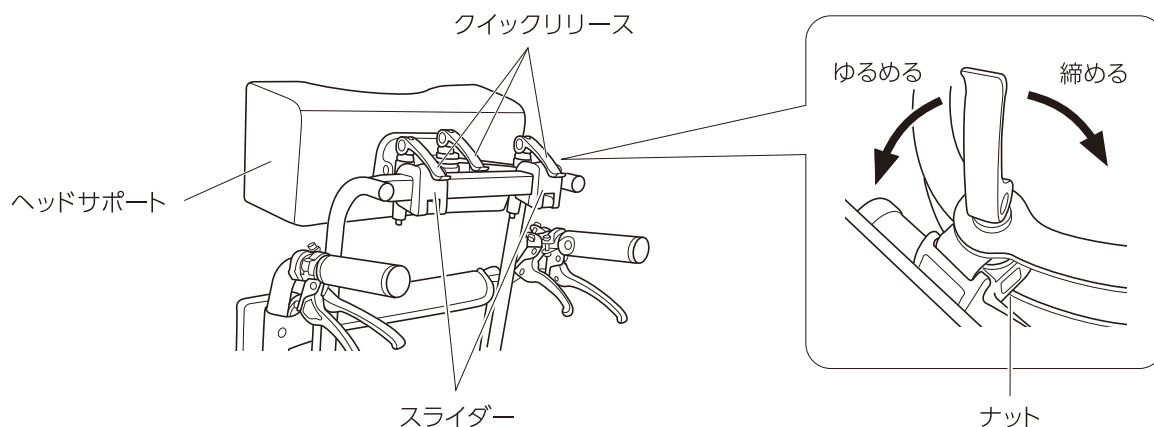
ヘッドサポートの高さ調節

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 左右のノブボルトをゆるめて、ヘッドサポートの高さを調節します。
- 3 希望の高さが決まったら、左右のノブボルトを締め付けてヘッドサポートを固定します。

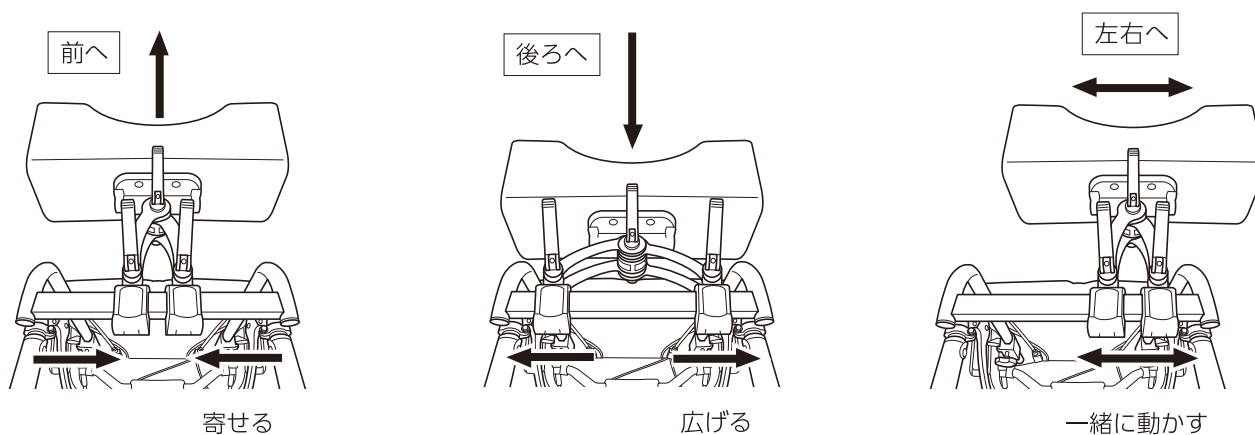


ヘッドサポートの位置・角度の調節

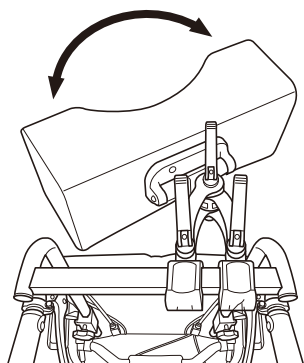
- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 3つすべてのクイックリリースを起こしてゆるめます。



- 3 左右のスライダーを動かして、ヘッドサポートの前後左右を調節します。



- 4 枕の左右の角度を変えて、希望の位置になるように合わせます。



- 5 希望の位置が決まったら、3つすべてのクイックリリースを倒して、スライダーを締めこみます。

※クイックリリースレバーによるクランプ力の調節は、レバーの反対側にあるナットを締める、もしくはゆるめることで調節できます。

バックサポートの張り具合調節

バックサポートにはテンション式背シートを装備しています。テンション式背シートの張り具合を適切に調節することにより、バックサポートが使用者の体にフィットして、疲れにくく安定した姿勢を保つことができます。

※調節は使用者を乗せた状態で行ってください。

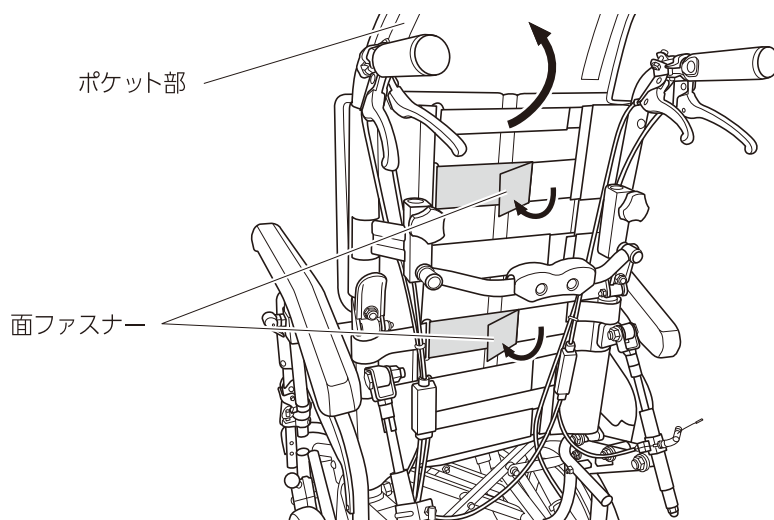
※アウターシートを外して調節を行うと、効果を確認しやすくなります。

⚠ 注意

- 面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- 面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、十分に車いすが開かなくなり、フレームの変形の原因になります。

バックサポートの張り具合を随時チェックして、必要に応じて調節してください。

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 背アウターシートのポケット部をめくり上げます。



- 3 面ファスナーをはがして、バックサポートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合わせます。

※手でバックサポートを押して、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認ください。

※必要に応じて、ヒップシートの張り具合も同様に調節します。

- 4 背アウターシートのポケット部を元に戻します。

※過度の調節(ゆるめすぎ、締めすぎ)はかえって姿勢を崩すことになります。十分注意して行ってください。

キャストのメンテナンス

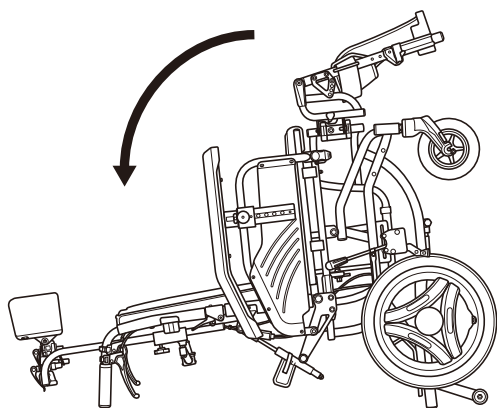
本製品はキャストの車輪を工具を使用することなく取り外すことができます。
車軸にからまった異物を取り除く際に便利です。

車輪の外しかた

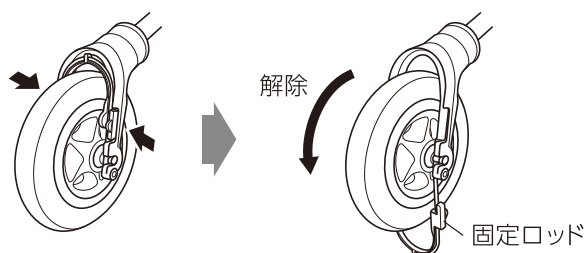
1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 車いすを後方に倒します。

※まわりに人や障害物がないことを確認して、ゆっくり動かしてください。

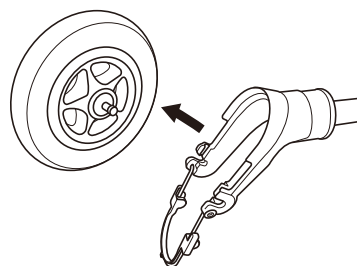


3 キャスタフォークの固定ロッドを両側から指ではさみ、矢印の方向に動かしてロックを解除します。



4 車輪を上引っ張って、車輪を外します。

※キャストフォークや車輪の軸に異物があるときは、この時点で取り除いてください。

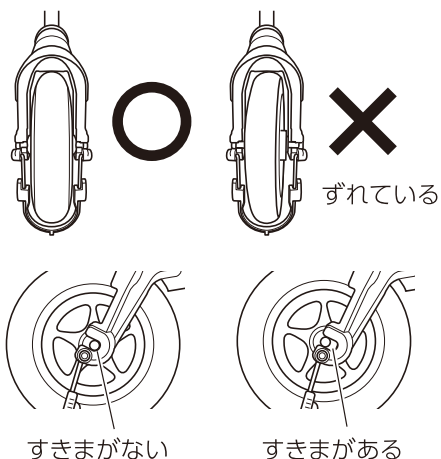


車輪の取り付けかた

1 キャスタフォークの溝に、車輪を挿入します。

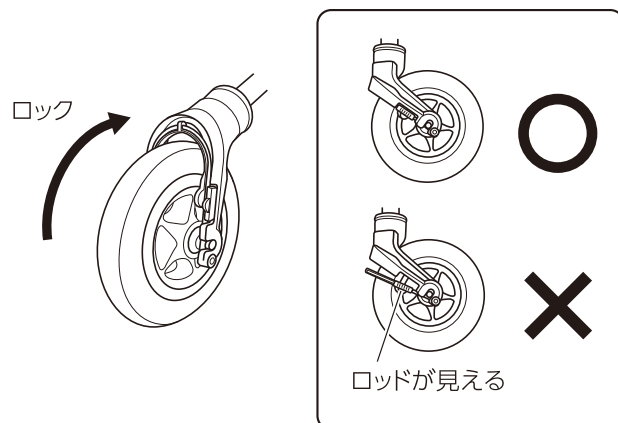
車輪の軸が、キャストフォークの溝へ確実に奥まで入っていることを確認してください。

⚠ 警告



2 固定ロッドをもとの位置に戻してロックします。

※車輪を軽く動かして、固定ロッドで確実に固定されていることを確認してください。



3 車いすを元の位置に戻します。

使用上のご注意

保守・点検

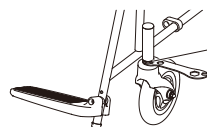
乗車前には必ず下記の事項を点検・整備して、常に安全な状態で使用してください。

*修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。



警告

キャストの旋回軸やキャスト、主輪(ホイール)、ブレーキ、各調節部等は定期的に点検してください。
ゆるんでいるときは増し締めをしてください。



キャストの旋回軸

- 使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。
- 車いすは熱気、湿気に弱いので、湿気の多い所、屋外、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、直射日光の当たる場所には放置しないでください。

駐車用ブレーキの作動確認

- 駐車用ブレーキレバーを操作して、確実にブレーキがかかることを確認してください。

各調節部分が固定されていることの確認

- 各調節部分を確認して、確実に固定されていることを確認してください。

消耗品、交換部品の確認



警告

交換部品を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

- それぞれの部品が交換時期を迎えたときは、お早めに部品を交換してください。
- 新しい部品に交換する際は、お買い上げの販売店へ連絡してください。

消耗品・交換部品

品 名	交換時期
主輪 (ホイール)	• タイヤの表面に溝がなくなったとき。 • タイヤにひび割れなどが見られる場合。
キャスト	• 表面の摩耗が著しいとき。 • しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。

品 名	交換時期
シート	• ほつれ、切れ目が発生したとき。 • ひどく汚れたとき。 • 面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	• ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき。

お手入れ・保管について



注意

- シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。
- 車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。

フレームのお手入れ

- フレームの汚れは、中性洗剤を含ませたタオルかスポンジで拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。
- 水などがかった場合は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。

シートのお手入れ

- シートの汚れは、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。
- 面ファスナーに糸くず、汚れ等が付いた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによって、シート生地に毛羽が付着することがあります。毛羽が付着した際は、衣服用ブラシなどで付着した毛羽を取り除いてください。

アームサポート、グリップ、サイドガード等の樹脂部品のお手入れ

- 樹脂部品の汚れは、中性洗剤で落としてください。

タイヤのお手入れ

- タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。



警告

タイヤなどのゴム部品や樹脂部品は、濡れたまま放置したり、ひび割れが見られる状態で使用を続けると、樹脂内部に水分が侵食して加水分解を起こして、部品の劣化が早まります。症状が見られましたらお早めに部品を交換してください。

保管・収納について

- 収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- 錆やタイヤのパンク、劣化を避けるため、湿気の高い場所や室温が上がる場所、直射日光の当たる場所には保管しないでください。



警告

折りたたんだ車いすを持ち上げる際は、アームサポートなどの樹脂部分のみを持たないでください。破損する恐れがあります。

走行上のご注意

車いすの走行について



危険

- 傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には十分注意してください。
- 溝や踏切の線路による落輪、キャストのはさみ込みには十分注意してください。



警告

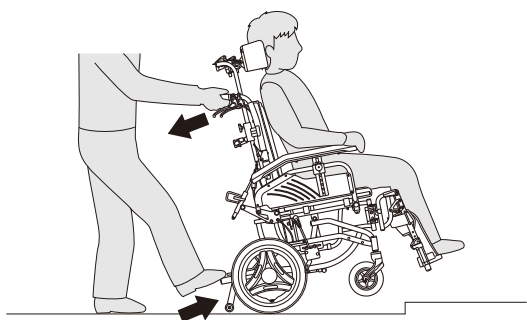
- 車いすは道路交通法上、歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- 歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないように十分注意してください。
- 踏切を通過するときは、まわりの安全を確認したうえで、停車せず にまっすぐ通過してください。
- エスカレーター（車いす対応エスカレーターは除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）での使用は、絶対に行わないでください。
- 公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。

段差介助のしかた

⚠ 警告

- ティルト・リクライニングさせた状態で段を乗り越えたり、スロープを通過しないでください。転倒など事故につながる恐れがあります。
- 持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、背折れジョイント、フット・レッグサポート、フットサポートなどは持たないでください。

- 1** ティルト・リクライニングしている場合は、シート角度を水平に戻します。
- 2** 必要に応じて、転倒防止装置を取り外します。
(⇒「P.16 転倒防止装置の取り付け・取り外し」)
- 3** 足元のティップingleレバーを前方に押し出すように踏み込みながら、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャストを段の上にあげます。

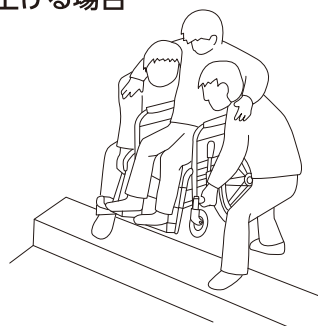


※ティルトレバーを握った状態でティップingleレバーを踏むと、フレームがねじれて片側のキャストだけが浮くことがあります。このような状態になった場合は、ティップingleレバーを踏まずに両方のティルトレバーを握ると元に戻ります。

- 4** 主輪を段に当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。
※無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。
- 5** 転倒防止装置を外した場合は、上がり終わったら、転倒防止装置を取り付けます。

車いすに乗ったまま持ち上げる場合

車いすに乗ったまま持ち上げるときは二人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持ち上げるようにします。



本製品の処分について

本製品の処分につきましては、最寄りの自治体担当窓口までお問い合わせのうえ、自治体の指示に従って廃棄してください。

困ったときには

車いすをご使用されていて、「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡する前に、以下の項目を確認してください。

症 状	確認点	対 処
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。 車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 傾斜面の低い側にあたる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	キャストの回転に左右差がありませんか。キャスト軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	搭乗した状態でキャスト、駆動輪(主輪)の計4輪がきちんと接地していますか。	
駐車用ブレーキが効かない。	駆動輪(主輪)のタイヤは摩耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押さえが駆動輪(主輪)に確実に当たっていますか。駐車用ブレーキがガタついていませんか。	
	タイヤ押さえに変形や摩耗はありませんか。	
制動用ブレーキが効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かたりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
車いすの各所から異音がある。	本体や車輪とオプション品、アクセサリなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するアクセサリなどは、車輪など回転する箇所と干渉しないようにしてください。
	可動部分の錆び・消耗・汚れ・油汚れなどによっておこる摩擦音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ボルト類のゆるみ等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	

症 状	確認点	対 処
車いすが開かない。	バックサポートの張り具合を締めすぎていませんか。	バックサポートの張り具合を調節してください。
	テンションバーが折れ曲がったままになっていませんか。	テンションバーをロックするまで押し下げてください。
	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取りまわしを修正してください。 改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
車いすがたためない。	フットサポートを降ろしたままにしていませんか。	フットサポートを上に戻してから、車いすをたたんでください。
	テンションバーを折り曲げていますか。	テンションバーを折り曲げてから、車いすをたたんでください。
	ヘッドサポートを取り付けたままにしていませんか。	ヘッドサポートを取り外してから、車いすをたたんでください。
リクライニング(ティルト)の動きが悪い。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取りまわしを修正してください。 改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ヘッドサポートが取り付けられていますか。	ヘッドサポートを取りつけてください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
キャストが空回りする。	前後左右のいずれか、または複数のキャストが地面から浮いていませんか。	平坦な場所でティルトレバーを握ってください。 ※ティルト角度を操作する必要はありません。

仕 様

機 種 名	SKT-Ti-7	SKT-Tr-8
フレーム材料	アルミ	アルミ
シート材料	ポリエステル、ナイロン	ポリエステル、ナイロン
アームサポートタイプ	開閉式(ウイング)	開閉式(ウイング)
アームサポート	ウレタン	ウレタン
サイドガード	ポリプロピレン	ポリプロピレン
グリップ	PVC	PVC
バックサポート	テンション調整式	テンション調整式
背折れ	あり レバー式	あり レバー式
フット・レッグサポートタイプ	スイングアウト	スイングアウト
フットサポート	軽量スライド式	軽量スライド式
キャスト	ソフトフォーミング	ソフトフォーミング
タイヤ	ハイポリマータイヤ	ハイポリマータイヤ
制動用ブレーキ	あり サーボブレーキ	あり サーボブレーキ
ハンドリム	なし	なし
駐車用ブレーキ	引き掛け式トグルブレーキ 足踏み式ブレーキ	引き掛け式トグルブレーキ 足踏み式ブレーキ

(測定項目)	単位 : mm	
駆動輪(主輪)径 (inch)	14PU(黒)	14PU(黒)
キャスト径 (inch)	6	6
前座高	435	435
後座高	435	435
シート奥行	420	420
シート幅 ※1	400(360)	400(360)
バックサポート高	500	1305
フットサポート・シート間距離	320/340/360/380	340/360/380/400
アームサポート高	240/260/280	240/260/280/300/320/340
全高 ※2	1315(1005)	1315(1005)
全幅	490	490
全長	1005	1005
折りたたみ全高	715	715
折りたたみ全幅	330	330
折りたたみ全長 ※3	750(985)	750(990)
重量 (kg)	20.6	23.6

※1 ()内は座クッションを外した時の寸法です。

※2 ヘッドサポートを含めた寸法です。()内はヘッドサポートを取り外した時の寸法です。

※3 ()内はフット・レッグサポート取り付け時の寸法です。

静的安定性試験方法 (弊社ではJIS T9201 10.1.2a方式によって試験を行っています。)

キャストが交換可能な場合、推奨するキャスト径は上記キャスト径になります。駆動輪・主輪のボルトとナットは、インチねじ(UNF 1/2-20山)仕様になります。

アフターサービス

- 万一故障の場合は、お買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名と故障状況を連絡してください。
- 保証期間内の修理につきましては、保証書の提示が必要です。

保証

- 保証内容につきましては、同封の保証書をお読みください。
- 保証期間終了後の修理につきましては、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理いたします。

製造元


株式会社 ミキ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目 38 番 10 号